



## 子どもと平和

理事長 苅部 一夫



孫が生れてからでしょうか、幼い子供を目にすると、それまで以上にかわいいと思うようになりました。家族に囲まれ、穏やかな気持ちで過ごしている孫たちを見ているだけでこちらも幸せな気持ちになります。

コロナや戦争のニュースを聞く度に子供にとって最良な環境は、毎日食べ物があり、寝るところがあり、遊んだり学んだりするところがあり、自分を守ってくれる人の傍にいられる日常なのだと気づかされます。

幼い子供は、自分で環境を選べません。そこでしか生きる術のない子供たちは、ある意味、私たち大人が生み出した環境に幸福を依拠しているとも言えます。

その昔、戦争体験をした父母から、戦時下の話を聞いたことを思い出します。来る日も来る日も、食べるものがなく空腹でつらかったことや爆弾投下や空襲警報におびえていた話を聞きました。関東大震災や東京大空襲など、地獄のような惨状を人生の中で何回も経験してきたのですから、きつと子供心に大きな傷を負い、その後の人生の中でも度々トラウマのように繰り返し思い出していたようです。

それに比べ私が生きてきた戦後の時代は、少なくとも戦火はありませんでした。昭和二十年に敗戦し、戦後復興、沖縄返還、人々が努力してきた平和への道は、七

十七年も続いていきます。私たちはこの平和を手放さないように、二度と戦争をしない誓いをする必要があります。

心穏やかな日常の一瞬が当たり前のように続く日々が如何に重要な意味を持つかを改めて感じています。

しかし、平和を享受しているはずの日本でも、一人ひとりの子供たちに目をやると必ずしも望まれる環境とは言えない現実があります。親から虐待を受けている子、貧困から食べるものも口にできない子、ヤングケアラーと呼ばれる親族を介護して生活している子、など支援を必要としている子供たちが多数おり社会課題となっています。

また、コロナの影響で、人との関わりが不足し、心の発達に支障が出ているという研究結果が報告されていますし、ウクライナでの戦争の破滅的な映像を見ている子ども心に深刻な影響を及ぼしているとも言われています。

このように戦火こそない日本であっても、子ども達がおかれた状況は厳しさを増しているように思います。

人の幸福にとって、また人の健全な成長にとって、衣食住の確保と人々との温かい関わりが如何に重要なことであるかがわかります。それは、誰もが享受する権利があり、保障されるものです。

子どもの福祉サービスにおいても、憲法で保障された「基本的人権」が根底にあることを自覚し、平和を守り人間らしい人生が送れるように、今後も一人ひとりに寄り添いながら支援させていただきたいと思えます。

# 7月の活動予定

| 日     | 月         | 火  | 水  | 木  | 金  | 土                     |
|-------|-----------|----|----|----|----|-----------------------|
|       |           |    |    |    | 1  | 2                     |
| 3     | 4         | 5  | 6  | 7  | 8  | 9<br>開所日<br>13:00 帰り  |
| 10    | 11        | 12 | 13 | 14 | 15 | 16                    |
| 17    | 18<br>海の日 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23                    |
| 24/31 | 25        | 26 | 27 | 28 | 29 | 30<br>開所日<br>13:00 帰り |

## ～ 販売活動の報告 ～

6月16日（月）～22日（日）「やさしさつながる福祉のマルシェ」に参加いたしました。出店場所が秋葉原駅の構内でしたので、人が多く行き交っており、夕方の帰宅ラッシュ時にはレジに行列が出来るほど大繁盛でした。参加事業所22カ所の中でもたんぼぼの商品は、お客様の目を引くような光景が多々あり、男女や年齢など関係なく幅広い層の方に興味を持っていただきました。販売後の反響も大きく、雑貨店からの委託販売のお問い合わせもありました。その中でも特にうれしかったのが、プローチをご購入されたお客様よりいただいたお葉書です。「これからも素敵なものを生み出して下さい」と最後に書かれており、ここまで頑張ってきた甲斐がありました。また明日の励みにしたいと思います。



自主製品を発信しています

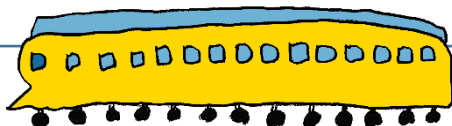
### Instagramのご紹介

スマートフォンのカメラアプリを立ち上げ、右のQRコードにカメラを向けると、URLが認識され、タップをすると、WEBサイトにアクセスできます。



HOUKITOTIRITORI.IT

# 今年度の就労継続課の取り組み



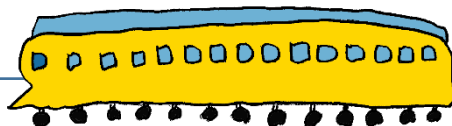
今年度の就労継続課では昨年度に引き続いて個別支援計画に沿った支援の充実と、利用者への平均工賃アップを目指して取り組んでいます。

個別支援計画に沿った支援としては、公園清掃や図書館清掃、アパート清掃、サンライフ清掃といった外作業において、イラストを使って視覚的に何を準備するかが分かるようになるなど利用者に合わせて支援を進めています。最初は支援者の指示を待って取り組んでいた利用者も取り組むことが分かることで自発的に準備が出来るようになり、それが自信になっているように思います。

今年の2月からは中古ゲーム機(Wii)のコントローラーの清掃や動作確認を行うという新しい作業が始まりました。ゲーム機で実際に遊んだことのあるOさんは動作確認で活躍され、ご本人も大変やりがいを持って取り組んでいただいております。利用者の皆さんが丁寧に作業を進められたこともあって、5月からは同じ取引先から追加で新しくフリマアプリ『メルカリ』での中古ゲームソフトの委託販売業務も始まるなど作業の幅も広がっています。出品作業はPCを使って行うので、PCが使える利用者は、ご自分の得意なことを作業に活かします。それぞれの作業工程を細分化して、一人でも多くの利用者に関われることで作業の達成感を得られ、一人ひとりがやりがいを持って作業に取り組めるようにしていきます。

自主製品では、プリンターを活用してTシャツやトートバッグ、ポーチなどを製作しており、随時新作を発表、販売しています。毎月の練馬区役所でのねりいち販売会に加えて、5月にJR秋葉原駅コンコースにて行われた「やさしさつながる福祉のマルシェ」や練馬駅ココネリでの「ねりいち in ココネリ」と販売会イベントに積極的に参加してお客様の反応も上々でした。今回初めて販売会に参加したご利用者は「楽しかった」「また参加してみたい」との声もありました。また、店頭での直接販売の他にもハンドメイドショップ「minne(ミンネ)」というネット販売アプリにも登録し、販路拡大も図っていきます。

販路拡大にも合わせて今後も利用者の皆さんが描いた個性的な絵を用いて、様々な商品を作って販売して行きたいと思っておりますので、今後とも応援よろしくお願いいたします。



新作のトートバッグやTシャツも  
沢山売れました！



動作確認 OK です！



次の新作デザイン？



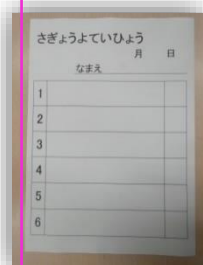
# 新年度が始まっています

～生活介護～



桜の見頃もとうに過ぎ去った4月、12名（現在は11名ですが）の利用者さんとともに生活介護の新年度がスタートしました。まだまだ新型コロナウイルス感染者数は多いままで、ウイルスとの付き合い方も心得、少しずつコロナ前の活動が戻ってきています。一昨年は誰も訪れなかった農園にも、きゅうり・いんげん・ほおずきの苗を植え、ミニトマト・えだまめ・ひまわりの種をまきました。これから夏に向けてどんどん賑やかになっていくことでしょう。

さて、私たち人間も植物に負けず元気に前進していきたいと思います。今年度生活介護では、個人としても集団としても、様々な場面で小さな「できた！」を積み重ね、その結果を目で見て振り返り喜びことに力を注ごうと考えています。各々の特性により、すべての方が使用しているわけではありませんが、見て振り返るためのシートをご紹介します。



自立課題を行う際の作業予定表です。休憩や後片付けも含めて自分で計画を立て進めていきます。休憩開始時にはタイマーをセット！休憩終了を告げるピピピの音に反応しきれないこともあります、一生懸命頑張ります。



調理の話し合いでは、メニューと一緒に食器や調理器具の準備の担当も決めます。当日、収納場所から必要個数取り出し洗います。終わったら、写真をはがします。シートに何もなくなれば準備完了！



朝学習でプリント学習に取り組むときに使用しています。着席するまでに少々時間はかかりますが、一度鉛筆を握るとしっかり集中しています。終わったらこのシートにシールを貼ります。



運動の時間のサーキットトレーニングの進捗確認表です。①から始める方、好きな種目から始める方と進め方は様々ですが、みんなの好きな曲をかけて、1曲1種目として行っています。終わった種目には確認欄に○をつけていきます。



**やった～♪  
できた～♪  
がんばった～\(^o^)/**



と、みんなで讃えあえる仕組みをもっともっと作っていきます。



最後に職員が「やったー！」と思った瞬間をご覧ください。この写真とてもよく撮れているのですが、単純によく撮れているだけではないのです。職員が間に入っていないのに、みんながかたまってほぼ等間隔に並んでいるのです。しかも全員の表情が見て取れます。「さあみんなで写真とるよ～ならんで～」と事あるごとに集合写真を撮り続けた甲斐がありました。